

てん菜生産の現状と

諸課題について

一般社団法人北海道てん菜協会

前事務局長 吉村清和



一般社団法人北海道てん菜協会の概要

はじめにてん菜協会について、設立経過等を含め概要を説明します。

てん菜の取引が、重量取引から糖分取引への移行に伴い、その取引の円滑な

推進のため、移行前にあつたて

ん菜糖分取引対策委員会・てん

菜技術推進協会

・てん菜取引公平委員会を解散

しその業務を継承し、生産者と

糖業者の中立機関として昭和六

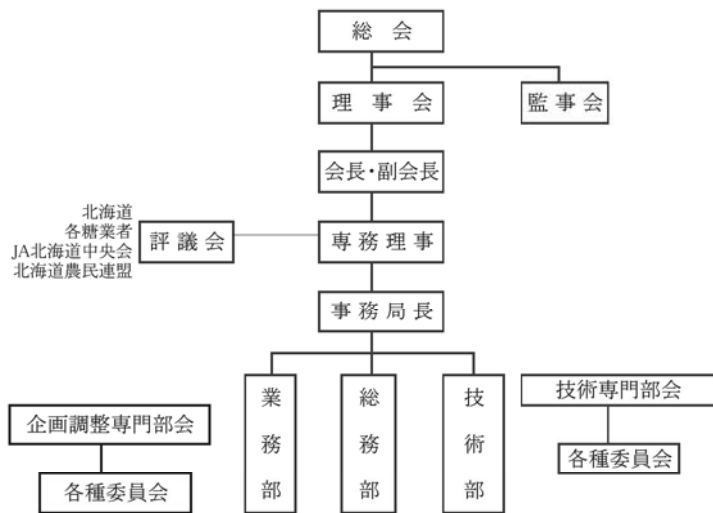
一年九月二十九日

に設立され、本年で二八年目を

迎えております。

寒冷地畑作農

業



業の基幹作物として本道農業を支えてきたてん菜は、第一次大戦後てん菜の栽培が復活した以降は、重量のみによる取引が行われ、栽培技術指導など収量の向上に重点が置かれていました。しかし、てん菜は砂糖の加工原料であり、先進各国が全てそうであるように、糖分を加味した合理的な取引に改善すべきではないかとして、昭和四四年に生産者団体・糖業者・北海道のほか学識経験者を加えて「てん菜取引制度調査会」が発足したのが糖分取引移行への始まりです。その後、昭和五四年には、本格的に糖分取引に取組むため「てん菜糖分取引対策委員会」が発足し、糖分取引実施上の課題と制度的問題を明らかにして関係者に検討素材を提供し、昭和五八年には、模擬糖分取引を行い、広く生産者の理解を求めると糖分取引の気運醸成が図られてきました。検討の進展に伴い、検討経過や糖分取引推進費の新設を踏まえ、昭和六一年産のてん菜から糖分取引に移行することが確認され、同年九月二九日に「社団法人北海道てん菜協会」が設立され協会の業務がスタート致しました。

現在の会員は、普通会员として、北海道・生産者団体・糖業者団体で一五普通会员、特別会員として（地独）北海道立総合研究機構農業研究本部の作物開発部長・十勝農業試験場長・北見農業試験場長の三名になっていた。い

具体的な事業の概要

・原料てん菜の受渡し及び糖分測定立会事業

原料てん菜の受渡しと測定業務を立会するため、糖業者並びにその区域内の生産者団体等と協議して選定し推薦された立会人との間で労働契約を締結し、原料てん菜の受入と糖分測定の業務を公正中立な立場で立会を行つている。近年は、立会業務の合理化を図るため、原則として複数のパイラーを掛け持ち立会する兼務立会を行つている。また、糖分測定センターにおける業務についても糖分測定機器が正常に稼働しているかの確認業務を始業前に糖業者の確認のもと実施しているところである。

・試験研究事業

少しでも重量があり、糖分が高く病害虫に強い品種が生産者や糖業者から求められており、そのために試験場に種々試験を依頼して優良品種の開発に取り組んでいる。

てん菜の原種は、ヨーロッパから各糖業が輸入し糖業者において三〜四年試験を行い、その結果に基づき、試験場において有望品種について生産力や抵抗性検定試験を行い、その中から糖分が高く重量があり、病害虫に強い等の品種が道の認定委員会において優良品種として認定されている。

平成二五年度のてん菜の優良品種には、二品種が認定された

ところである。

また、近年発生が多発しつつある西部萎黄病の発生要因を明らかにし、被害軽減対策を講じることを目的に北農研や道総研試験場に委託して取り組んでいる。

・普及啓発事業

てん菜・てん菜糖をめぐる事情や高品質の栽培技術の普及、更にはてん菜糖の普及・需要拡大対策に取り組んでいる。

具体的には、毎年二月に全道四カ所において「てん菜づくり講習会」を開催し、てん菜をめぐる情勢やてん菜の栽培技術について伝達し、面積確保や栽培技術の向上につなげていくところである。また、高品質なてん菜を生産している生産者を表彰し、その技術をてん菜協会だよりや講習会において発表・掲載し、生産者への普及を図っているところである。

また、てん菜糖の需要拡大を図るため、「農業・農村in赤れんが」等の各種イ



ベントへの参加や道内外の小学校等からの要望に応じ、てん菜の苗や現物の提供、また、普及啓発資料の配布活動を行っている。近年は、てん菜の現物を見たことがない人が多くなっており、少しでもてん菜について理解が進むようにPR活動を今後とも積極的に行っていくことが重要と考えている。

最近のてん菜の生産状況と課題

てん菜の作付面積の維持拡大が最大の課題

平成二五年度のてん菜の総生産量は三、四三五千トンで前年より三二二千トン減少しており、作付面積は、五八、一八八ヘクタールであり、これは九年連続して前年を下回っており、由々しき事態に至っている。減少の要因は、てん菜生産者の高齢化と近年の春先の低温や降雪により、移植や直播の播種作業が遅れることによる収量の減少や糖分の低下等があげられるとともに春の移植作業労働がきついこと、生産資材の高騰等により収益の低下などが生産者の生産意欲の減退につながっていること。また、糖分について収穫時期の日中と夜温の差が大きいほど糖分が上昇する作物であるが、近年は、積算最低気温が高く、また夜温が下がらず根中糖分は平成二四年には糖分取引に移行後最低の一五・二％になるなど生産者・糖業者にとつても誠に厳しい状況になっている。当協会としては、近年のてん菜

てん菜・てん菜糖の生産実績

(25年産てん菜の地域別生産実績)

地域名 (振興局等)	作付面積 (ha)		ha当たり 収量(t)	生産量(t)	平均 糖分(%)	栽培農家 戸数(戸)	1戸当たり 面積(ha)	
	うち直播	直播率(%)						
石狩	981.64	369.12	37.6	55.81	54,786.45	15.6	146	6.72
渡島	125.54	40.24	32.1	50.66	6,360.07	15.5	28	4.48
檜山	180.60	23.61	13.1	56.95	10,284.77	16.3	41	4.40
後志	1,228.71	281.86	22.9	55.13	67,733.52	16.6	280	4.39
空知	559.40	228.58	40.9	56.50	31,606.08	15.9	146	3.83
上川	3,560.09	672.41	18.9	54.59	194,356.39	16.0	761	4.68
留萌	425.86	5.11	1.2	36.25	15,439.29	15.1	21	20.28
オホーツク	23,787.29	2,808.31	11.8	55.24	1,313,935.84	16.8	2,697	8.82
胆振	1,485.97	589.42	39.7	57.15	84,925.53	15.9	315	4.72
日高	50.83	19.74	38.8	57.46	2,920.94	16.6	7	7.26
十勝	25,386.68	3,243.66	12.8	64.21	1,630,061.93	15.7	3,199	7.94
釧路	294.58	—	—	58.53	17,240.78	16.7	16	18.41
根室	120.67	10.38	8.6	47.00	5,671.83	17.2	11	10.97
合計	58,187.86	8,292.44	14.3	59.04	3,435,323.42	16.2	7,668	7.59

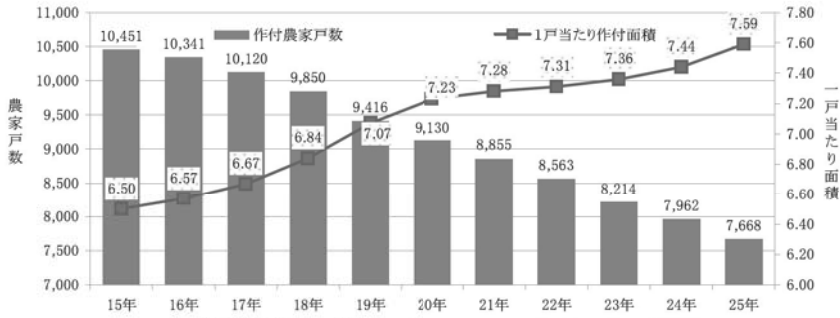
(年次別生産実績)

年次	てん菜の生産実績				てん菜糖の生産実績	
	作付面積 (ha)	ha収量 (t)	生産量 (t)	糖分 (%)	生産量 (t)	歩留 (%)
昭和61年	72,132	53.54	3,861,848	17.2	630,143	16.32
62	71,377	53.62	3,827,243	16.9	626,115	16.36
63	71,829	53.58	3,848,511	17.3	648,623	16.85
平成元年	71,913	50.95	3,663,925	17.0	614,271	16.77
2(1990)	71,953	55.50	3,993,571	16.4	643,607	16.12
3	71,900	57.23	4,114,784	17.6	718,821	17.47
4	70,560	50.75	3,580,605	17.6	626,175	17.49
5	70,082	48.34	3,387,655	18.0	602,359	17.78
6	69,752	55.23	3,852,569	15.6	583,318	15.14
7(1995)	70,016	54.46	3,813,213	17.3	650,741	17.07
8	69,664	47.30	3,295,192	17.6	573,144	17.39
9	68,259	53.98	3,684,564	17.6	643,547	17.47
10	70,000	59.49	4,164,421	16.6	679,829	16.32
11	69,999	54.10	3,787,098	16.6	616,883	16.29
12(2000)	69,109	53.15	3,673,429	15.7	569,200	15.50
13	65,874	57.62	3,795,693	17.6	664,028	17.49
14	66,531	61.60	4,098,038	17.8	722,589	17.63
15	67,882	61.30	4,160,931	18.0	744,436	17.89
16	67,986	68.48	4,655,940	17.2	785,510	16.87
17(2005)	67,501	62.24	4,201,157	17.1	708,488	16.86
18	67,364	58.23	3,922,792	16.4	635,702	16.21
19	66,566	64.56	4,297,222	16.7	709,198	16.50
20	65,970	64.40	4,248,247	17.4	732,430	17.24
21	64,442	56.63	3,649,335	17.8	639,946	17.54
22(2010)	62,559	49.40	3,090,381	15.3	466,488	15.09
23	60,419	58.71	3,547,377	16.1	564,670	15.92
24	59,235	63.44	3,757,831	15.2	556,298	14.80
25	58,188	59.04	3,435,323	16.2	551,340	16.05

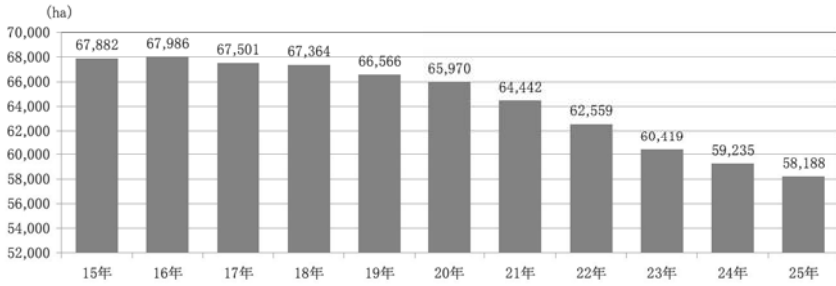
生産の縮小傾向は、畑作農業の基本である輪作体系の崩壊、強いては畑作農業の存続、地域経済や雇用に重要な役割を果たしている糖業者の経営にも大きな影響を及ぼすとの認識のもと、

面積確保を始め各種事業に取り組んできたところである。国においては、ここ数年てん菜の不安定な生産が続いていることから、平成二六年産から経営所得安定対策(畑作物の直接交付金)の基準糖度を引き下げ、交付金単価を引き上げる見直しがなされたところである。このことから、ヘクタール当たり収入は糖分を一六・三度、砂糖の販売代金からの原料代を平成二五年度と同程度として試算すると一〇八千円強になり、平成二五年度と比べると一万円近く増加することになります。

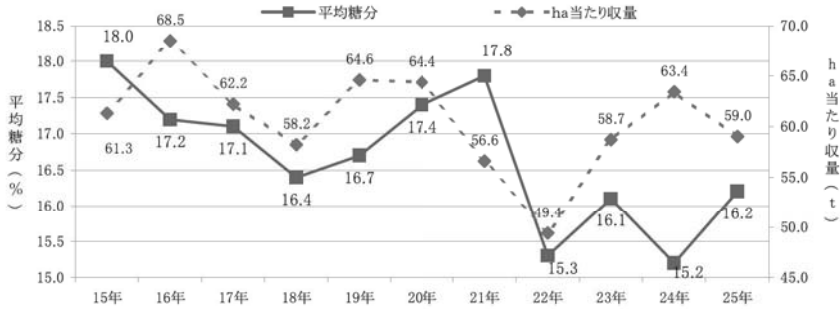
今年のとん菜の生産によつては、所得が増加することが確認されることになり、また、次年度以降に向けて生産者の生産意欲が喚起され、作付面積の維持・拡大につながることを期待しているところであり、



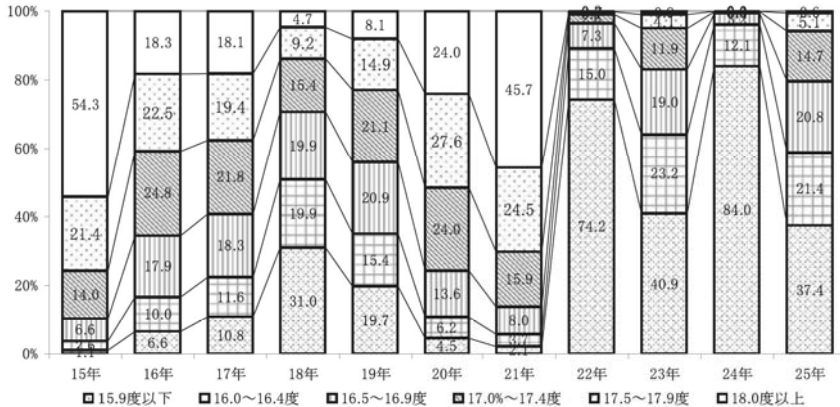
てん菜作付農家戸数及び一戸当たり 作付面積の推移



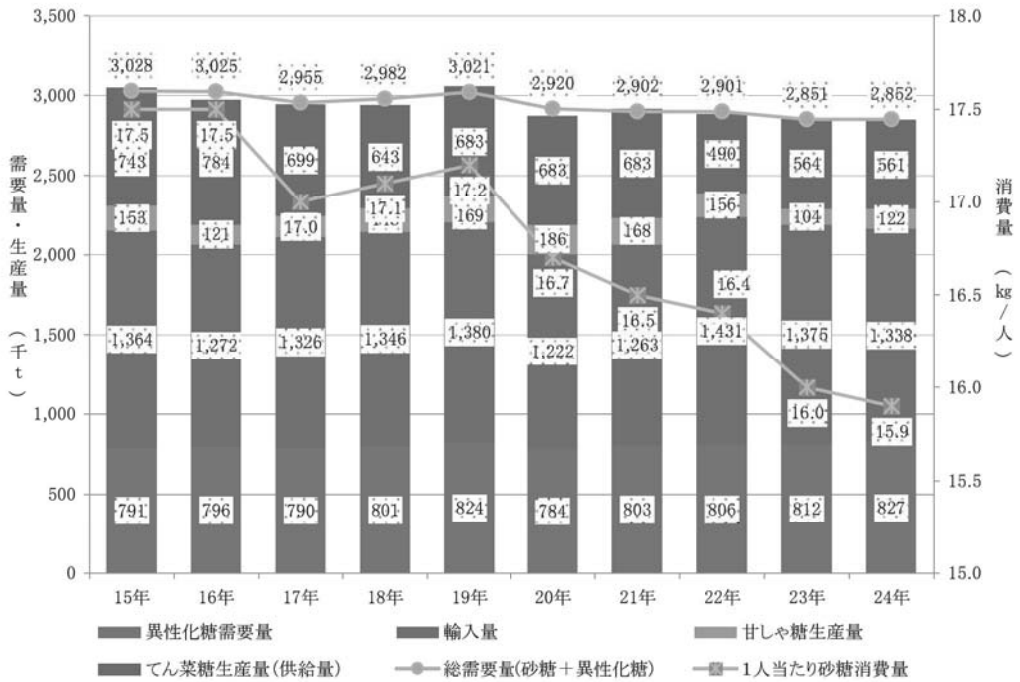
てん菜作付面積の推移



ha 当たり 収量及び平均糖分の推移



てん菜の糖分帯別買入割合の推移



砂糖等の需要量、生産量及び国民一人当たり消費量の推移

気がかりなTPP交渉問題

例外なき関税の撤廃を基本とするTPP（環太平洋連携協定）交渉問題については、関係者の強い懸念にもかかわらず、政府は昨年七月から交渉に参加したところであり、関税が撤廃されると農業の崩壊だけでなく地域経済に幅広く影響があることから断固阻止に向けて取り組んでいるところです。四月に米国のオバマ大統領が来日した折には、決着が付きませんでした。今後とも予断を許さない状況が続いており、国は、国会決議を踏まえ、交渉に臨んで、食料自給率をこれ以上下がらないようにすべきであります。

特に、米をはじめとする重要五品目（米、麦、牛肉・豚肉、乳製品、甘味資源作物）については、再生産が可能となるよう除外又は再協議の対象にするよう進めるべきであり、協議の内容を明らかにすべきであります。

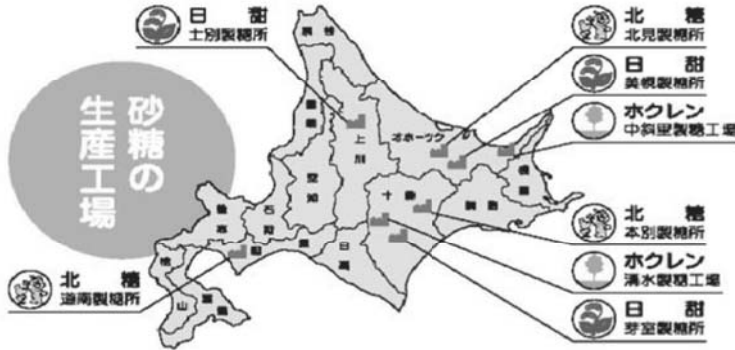
てん菜糖の需要拡大対策を積極的に

砂糖は、食べると太る、糖尿病になる等体に悪いと思われています。

しかし、砂糖は、人間に必要な三大栄養素の一つ炭水化物で、体のエネルギー源となる貴重な栄養素なのです。また、「脳」

のエネルギー源は、砂糖に含まれるブドウ糖だけで、心をリ
ラックスさせる効果もあります。

日本では、沖縄・鹿児島で生産されているさとうきびからつ



くられる砂糖とてん菜からつくられる砂糖があり、北海道はて
ん菜糖を生産している唯一の産地なのです。また、国内で生産
される砂糖の約八割がてん菜糖からつくられております。

なんでもそうですが、食べ過ぎると体に良くありません。肥
満の原因は、エネルギー消費に対し必要以上にとつてしまうか
らです。食べ過ぎや不規則な食生活、運動不足が主な原因で、
砂糖のとりすぎだけで太ることはありません。

また、砂糖は、一粒一粒がきれいな結晶になっており、白く
見えるのは、雪が白く見えるのと同じで、光が乱反射している
から白く見えるので、決して漂白剤などで白くしているのでは
ありません。

日本の一人当たりの砂糖の消費は、約一八kgで、海外と比較
すると日本は少ない方で、世界一五五カ国中九五位で、先進国
では最下位です。砂糖は一般的な摂取量であれば健康を害する
ことはありません。

これらのことをPRし、更なる消費拡大に結びつけていきたく
と思っています。

最後に平成二六年度のでん菜の生育状況は、八月一日現在で
は順調に生育しており、よい出来秋を迎えられることを強く期
待しているところです。